



#### 4) Open labの開催

試験に向けて学生が自主学習を行えるように、実習で使用した道具を一定期間用意するというOpen lab支援を行っていきます。

Open lab開催前に学生へお知らせをして、機器、器具類の動作と数のチェックをし、不足分は発注して設営する。

開催期間中は準備と片付けを行う。教員の指導やSP※3（模擬患者）による医療面接の練習を行う時には、そのサポートも行っている。

※3 SP=Simulated patientの略



図4. SPの協力による医療面接の練習風景



図5. 縫合の練習風景

#### 5) 評価者オリエンテーション実施支援

評価者に対して試験前に数回実施される評価者オリエンテーションの支援を行う。

全体説明の後、各Stationに分かれて課題に対する共通認識や評価基準の確認などが行われる。

担当の技術職員はStation内の配置図や資料、使用する器具機器を用意する。

#### 6) 設営

前日に試験会場およびその他全ての設営を行う。

関係者以外立入り禁止にしたうえで、共通エリアを準備し、その後に各Stationの設営を行う。

本学では授業期間中にOSCEが実施されることから、授業チャイムがOSCE試験会場に鳴らないように、試験会場および廊下のスピーカーの音量をOFFにする配慮をする。

また、万一を考え臨時救護室も設ける。

設営後は、問題がないか医学類長と副医学類長のチェックを受ける。



#### 7) 試験当日

OSCE当日は、各Stationの準備の後、当日の担当に従い他部署の支援協力を得ながら実施支援を行う。

当日の主たる仕事担当は、学生受付、チャイムとアナウンス係、学生誘導係、連絡員、評価者受付、Station内でのサポートなどがある。

試験会場が複数棟にわたる場合は、それぞれの場所で上記の係員が必要となる。

試験終了後は全ての道具、機器類を撤収し会場を元へ戻す。

#### 8) 試験後

試験実施中に万一トラブルがあった場合は、学生への影響が無いかの確認を

してもらうために、PCMEカリキュラム担当の技術職員へ報告を行う。

また、医学類実習担当技術職員だけで反省会を行い、次回に向けて申し送りを作成する。当日支援協力をしてくれた職員へも問題がなかったか確認をする。

#### 4. チーフとして特に心がけていること

医学類実習担当技術職員の通常の主たる業務は実習支援で、複数人によるチーム体制でチーフ制をとっている。OSCE実施支援業務についても、同様にチーフ制で行っている。

各Stationに関してはそのStationの担当者が主に行なうが、全体の統括はチーフが行う。

チーフとしてOSCE実施支援を進める上で、以下の点を特に心がけている。

1. 各Stationに関しても、全体に関わることや共用試験機構の指針の方向性とそれが生じることがないように随時確認をする。

2. 情報の漏洩防止を常に気をつける。

当日のみ支援協力してくれる職員へは、試験内容に関する情報は一切伝えない。誤って試験前に学生に情報が伝わらないように、仕事上必要な情報のみ伝える。また、仕事内容と注意して欲しいことを明記した書類を作成して渡す。

試験当日、学生は外部と接触をしないように行動を制限されている。そのため設営時には学生の集合場所や動線線上に試験に関係する情報がないかの確認をする。

受験前と受験後の学生が接触をしないように、試験会場や学生の動線を一方向にする。試験会場が複数棟になる場合は、さらに受験者同士が会話をして情報が漏洩する様ないように、移動の時は職員を同行させる。

これは試験進行が分割であるため、試験時間に遅れないようにするための意味もある。

さらに、別棟からの移動が建物の外を通る場合は、雨天時の傘立ての置き場所も学生の動線を考慮して配置する。

3. 試験当日の人員配置を良く検討する。

試験当日は状況をよく理解し、トラブルに即座に対応出来る人を主要各所へ配置する。

当日のみの支援協力者へは情報漏洩防止に情報制限をしているため、状況をよく理解している人を主要部署に配置することで、トラブルが起きた時に対処が早いという利点がある。

4. 試験進行のための資料は、シンプルにかつ的確に作成する。

試験はタイムテーブルに従い、職員がチャイムとアナウンスで知らせて進行する。そのためタイムテーブルには試験開始、終了、移動の時刻、アナウンスする言葉を記載する。トラブルがあつて遅延した場合は、数十秒単位もしくは分単位で調整が必要となるため、ミスを少なくする資料作りを心がける。

5. 情報の共有化と集約化の徹底。

試験は全て分割で進行することから、一ヶ所でトラブルが起きると全てに影響する。そのため、学生の集合状況、試験の開始時刻の遅延の有無、トラブル状況などは逐一チーフへPHSで連絡をするように各所へ依頼する。変更がある場合はそれをチーフから各所へ伝えるという情報の統括管理を行う。

#### 5. まとめ

共用試験機構からの指導も毎年変わっていくため、今後もそれに対応しつつ、トラブルが無く円滑に試験が進められるよう実施支援をしていきたい。問題点は次に改善をしていきたい。

また、Stationに関する実習の教員へ、技術職員の立場からフィードバックをしていきたいと思っている。